

彫刻とは

2023年

7月15日(土) ~ 9月27日(水)

SAPPORO
風間天心 川上りえ
高柳恵里 長谷川裕恭
藤沢レオ 山下拓也

会場／札幌大通地下ギャラリー500m美術館 札幌市中央区大通西1丁目く大通東2丁目
(札幌市営地下鉄大通駅と地下鉄東西線バスセンター前駅間の地下コンコース) 時間／7:30~22:00
主催／札幌市 企画運営／CAI現代芸術研究所／CAI03(有限会社クレスト)、一般社団法人PROJECTA



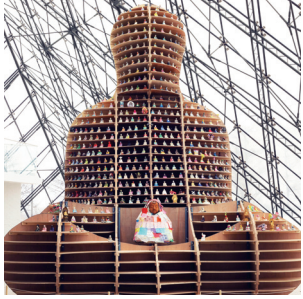
さっぽろ市
02-D05-23-653
R5-2-490

彫

500m美術館では初となる彫刻の展覧会「彫刻とは」を開催します。500m美術館は、作品を360度見ることができない展示空間ですが、細長く奥行きのないガラスケースという空間特性の中で、彫刻や立体という概念を捉え直します。彫刻や立体の可能性と特性を探究している作家の作品とともに、素材、重量、質感、塊、空間、配置、時間、歴史など彫刻を取り巻く様々な要素や概念を拡張して考える契機とします。

2023年7月15日(土)～9月27日(水)

刻



KAZAMA tengshing
風間天心

「令和の大仏」
2023年 / 6,000×6,000×6,000mm / 木材、鉄、セメント、紙、他
(GermanSuplex Airlines名義)

美術家、僧侶。1979年北海道東川町生まれ。2008年、武蔵野美術大学油絵コース大学院を修了。2009年、大本山永平寺にて修行。2011年、武蔵野美術大学パリ賞によりパリ市「Cité Internationale des Arts」に滞在。2020年より「大仏造立プロジェクト」をスタートし「令和の大仏」を造立。宗教と芸術の相互作用を求め、国内外で多様な活動を続けている。主な受賞歴として、「第5回 札幌500m美術館賞」グランプリ。「第22回 岡本太郎現代芸術賞」岡本敏子賞。
<http://www.tengshing-k.com>



KAWAKAMI Rie
川上りえ

「Yet We Keep Seeking for a Balance 2022」
2022年 / 6,080×6,080×1,080mm / ステンレス鋼、ボルトナット接続、溶接

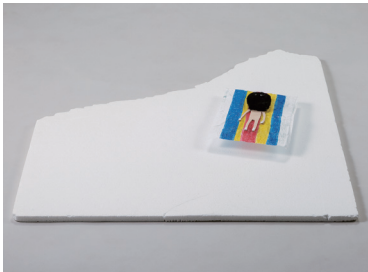
主に鉄を素材としながら、人間の知覚を超えた現象に着目し、万物の本質についての考察を投影した作品を制作している。表現手法としては、彫刻、インスタレーション、インタラクティブ・ワーク、サイトスペシフィック・ワークなどがある。札幌を拠点に、フランス、ポーランド、ルーマニア、韓国、台湾、アメリカなど、国内外で活動。2004年 フリーマン基金・第11回 アジアン・アーティスト・フェロシップを受賞し、ヴァーモント・スタジオ・センターのレジデンスプログラムに参加(ヴァーモント, U.S.A.)。2006年文化庁の助成を受け、ロケーション・ワンのレジデンスプログラムに参加(ニューヨーク, U.S.A.)。2012年 札幌文化奨励賞受賞。2013年 S-AIR AWARDを受賞。2018年 JR Tower Art Planets Grand prix Exhibition 2018 準グランプリ受賞。2021年 北海道文化奨励賞受賞。



TAKAYANAGI Eri
高柳恵里

「実例」
2022年 / 840×1,230×1,180mm / 泥、ポリシート、テープ
撮影:守屋友樹 提供:gallery αM

1962年神奈川県生まれ。美術家。多摩美術大学教授。武蔵野美術大学非常勤講師。多摩美術大学大学院修了。制作を通して、様々な方法で物事の捉え方の可能性を探る。2003年「近作展28 高柳恵里」国立国際美術館、2014年「油断」上野の森美術館ギャラリー、「αMプロジェクト2022 判断の尺度」gallery αMなど、個展多数。1992年「彫刻の遠心力—この十年の展開」国立国際美術館、1999年「ひそやかなラディカリズム」東京都現代美術館、2001年「美術館を読み解く」東京国立博物館、2007年「20世紀美術探検」国立新美術館などに参加。主なコレクションとして東京国立近代美術館、滋賀県立近代美術館、霧島アートの森、国立国際美術館、東京都現代美術館など。



HASEGAWA Hiroyasu
長谷川裕恭

「きみのぼしよ」
2022年 / 900×900×15mm / 木、ビニール、人工毛、発泡スチロール

1976年北海道生まれ。木や段ボールなど身近な素材を用いた、物語性のある彫刻作品を制作している。2009年より北海道美術協会会員。主な展覧会として、2021年「愛の反対は憎しみではなく無関心である」(JRタワーアートボックス/札幌)、2019年「まなざしのスキップ」(札幌文化芸術交流センターSCARTS/札幌)、2017年「記憶素子—丸山隆と教え子たち展」(本郷新記念札幌彫刻美術館/札幌)、2016年「首展」(アートスペース201/札幌)、2015年「知覚されるアート」(モエレ沼公園ガラスのピラミッド/札幌)、2014年「セブン・ストーリーズ」(本郷新記念札幌彫刻美術館/札幌)など。



FUJISAWA Leo
藤沢レオ

「passage moiwa」
2023年 / 10,000×10,000×3,000mm / 鉄、亜鉛メッキ

1974年北海道生まれ。鉄を主に金属、木、繊維などを素材に、彫刻、インスタレーション、工芸、舞台美術等ジャンルを横断しつつ、生と死を等分に背負うような自身の死生観を基に制作する。近年は柱形を象徴として人類の足跡を辿る生存の起源や場の発生、知恵の継承について思索する。2023年 札幌市政100年記念藻岩山モニュメント制作。2021年 個展「柱の研究」(モエレ沼公園)等。ディレクターを務めるNPO法人樽前arty+では地域、行政、教育機関、文化施設との協働により2017年 北海道文化奨励賞受賞。北海道大学文学院文化人類学研究室にて実践を通じた社会におけるアートの作用について研究中。



YAMASHITA Takuya
山下拓也

「VOTE MAYOR McCHEESE 2021」
<https://www.youtube.com/watch?v=iADRaEDdTOo>

1985年三重県生まれ、名古屋市在住。2013年 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了。木版画を「情報発信のメディア」と捉え、その技法を用い、現代社会で生きる私自身や近い人たちの抱える不安や葛藤を発信していく。過度に複製され、空間に増殖していくイメージやテキストは、人間の頭の中で反芻して止まない思考の表れである。主な個展は2023年「愛、嫉妬、別れ(ムンクやカニエをサンプリングして)」CADAN有楽町(東京)、2021年「マスコットたちとカニエ・ウェストとタコス男、他」Token Art Center(東京)、2020年「熊と多分インディアンと市長が警察官と背中、他」VOU GALLERY(京都)など。

と



ご来場いただいた方を対象に WEB アンケートを実施しております。今後のより良い企画運営のため、ご協力をお願いいたします。

● 回答方法 / スマートフォンやパソコンを使って下記URL又はQRコードからアクセスしご回答ください。
札幌市公式HP ホーム > 教育・文化・スポーツ > 文化・芸術 > 札幌市所管の文化施設について(指定管理者制度など) > 札幌大通地下ギャラリー「500m美術館」

https://www.city.sapporo.jp/shimin/bunka/500mbijutukan/2023_questionnaire500m.html

は